（４）女子中学高等学校の運営計画

校　長　浅 里 愼 也

2022 年度年間聖句

「見よ、新しいことをわたしは行う。今や、それは芽生えている。あなたたちはそれを悟らないのか。わたしは荒れ野に道を敷き砂漠に大河を流れさせる。」　～イザヤ書 43 章 19 節～

Ⅰ．はじめに

2020 年度から続く新型コロナウイルス感染症拡大による影響は、今世紀に入り取組まなければならなかった教育を含む社会全体が抱える課題を、私たちの目前に時間的猶予を許さない状態となって押し出しました。

現在教育現場で導入の進む ICT 化、新型コロナウイルス感染症禍（以下、コロナ禍）で速度をましたオンライン授業等の導入による学び方の変化は、学習の利便性と同時に生徒の心理的安心感への考察や配慮を十分に行えない中で進行しています。今後単に学び方の変更に留まらず、現行の小中高大学の学校教育制度の枠組みや学校自体のあり方に関して近い将来検討を迫られることが容易に予想されます。同時に国内人口減少による社会全体の萎縮は、少子高齢化による社会活動の減速と環境変化の側面を併せ持つ複合的な課題となり、学校現場では教員志望者の減少や過重労働など深刻な影響が出始めています。

今日、学校教育は歴史的な転換点にあることを強く感じます。目前の課題解決のために学校全体が注力すると同時に、21 世紀社会が大きく変わる中で新たな教育に取組むことが求められています。渦中にあって新しい教育へ挑戦しようとする時、創立者がどのような思いで学校を創立し、教育理念の実現に生涯をかけたのかを知り、学校の原点と歴史を学び確認することは重要です。特に新しい時代に本校を担う次世代の教職員に伝えていくことは、今後行う教育改革を実現するために不可欠だと考えます。

今年度は教育改革第Ⅰ期(プロジェクト 2020)の総括を活かし、2025 グランドデザイン(教育改革第Ⅱ期)を念頭に、以下の項目に重点を置く学校運営を行い評価される学校作りに励みます（<u>※各項目番号において、具体的取組みを記載していない部分については、2023 年度以降に順次検討を進めます</u>)。

Ⅱ．重点施策

(1) 21 世紀教育への取組み
- 新しい時代に求められる知識の習得と学力の向上を目指します。
- 「探求型授業、SDGs 教育、商品開発、GSlab」について継続して取組みます。
- 「イマージョン教育、IB 教育関連」について継続して取組みます。

(2) 言語教育
- 教科教育の枠を超えた学校生活全般での実践を目指します。
- キリスト教主義学校としての言語教育の実践を目指します。
- 知識習得と心の教育を繋げる働きを目指します。

(3) キリスト教教育
- 福音的聖書信仰に基づく教育の継承について継続して取組みます。
- 若い世代と共にあるキリスト教学校づくりを目指します。
- 心の教育の中心的役割の継続と目に見える形の実践体験に取組みます。
- 平和教育について継続して取組みます。

(4) 女子教育

・21 世紀社会のイノベーションを担う女性の育成に取組みます。
・新しい時代のリーダーの養成に取組みます。
・女子教育の研修と学び（探求型教育との関り）に取組みます。

(5) 基礎学力の向上
・学ぶことの楽しさを体験する授業づくりを研究実践します。
・探求型授業に必要な学力が身につく授業を行います。

(6) 財政健全化
・偏った支出削減ではなく、バランスを保ち教育活動に委縮を招かない形の追求を目指します。
・入学生徒数増に繋がる教育改革と 2030 年度経常収支差額均衡を目指します。
・奨学金制度の有効活用の検討と実施に取組みます。

Ⅲ．２１世紀教育への取組み

(1) グローバル教育(Cambridge English･リベラルアーツ教育・国際基準教育)
・探究型教育の実践、リベラルアーツ教育の研究を実施します。
・PBL 型学習、SDGs 教育、商品開発、GSlab 導入に取組みます。
・主体的な学習ができる生徒育成の研究を行います。
・STEAM 教育･IB 教育を中期計画期間(2030 グランドデザイン)に研究検討します。

(2) 総合学園としての研究･検討(英語･言語教育･芸術・イマージョン教育)

(3) リベラルアーツ教育実践(研究:STEAM・IB 教育)

(4) アクティブラーニング教育(本校に相応しい形を求めて)

(5) インターナショナルスクールとの関係構築
インターナショナルスクールとの関係が出来つつあります。双方の教育システムの違い等に関して慎重に対応しながら、これまでの枠組みに捉らわれない関係づくりを目指します。

(6) 将来の学校教育制度と役割(小中高大学校の枠組)、学び方、学校の在り方
近年、中高一貫教育だけではなく小中一貫校等、これまでの学校教育制度(小中高大)にはなかった教育システムの試みが行われています。
・学園内教育のスケールメリットを用いた教育制度や学び方を研究します。

(7) 通信教育の研究
コロナ禍によって、現行の学校教育制度だけの対応だけでは難しいことが更に明らかになりました。今後予想される教育制度の見直しを含め、学校のあり方を研究します。
・中期計画期間(2030 グランドデザイン)に研究検討します。

Ⅳ．言語教育

言語教育は学校生活の基として心の教育・教科教育・学級運営・学校行事等、全ての教育活動領域に大きく関わり影響を与えると考えます。新しい時代の要請と教育の変化にあっても相応しい学校生活の指針として、またキリスト教主義学校として実践する本校の言語教育を創立の源である聖書に置きます。

［ヨハネによる福音書１章１節～５節から］

<u>初めに言があった</u>：本校教育活動の基としての言語の在り方

<u>言は神と共にあった</u>：スミス先生を遣わし学校を造られた神(聖書)と共にある教育

<u>万物は言によって成った</u>：学校活動(授業・学級・課外活動・行事)で言葉が果たす役割を大切にする教育

<u>言の内に命があった</u>：生徒の人格(人権)を尊重し言(命)を大切にする教育。生徒が語り、生徒に語ることを大切にする教育。

<u>(言の)命は人間を照らす光</u>：生徒が神から愛され、他者を愛する生き方を知る教育

<u>光は暗闇の中で輝いている</u>：社会で生きる本校の生徒像“Shine like stars in a dark

world.”

暗闇は光を理解しなかった：困難・試練にあっても誠実に希望を持って生きる教育

・言葉と文字を通して自分と向き合い、他者への理解を深める。

・授業以外の場、ガイダンス、課外活動で用いる言葉の可能性を理解する。

(1) 母語としての日本語教育の研究と実践

・全ての教育活動の土台となる母語としての日本語を研修実践します。

・グローバル教育に果たす母語の働きを研修し授業に活かします。

(2) 英語以外の外国語(例:中国語・韓国語・ロシア語・仏語・独語・西語)の導入検討

(3) 国内英語研修(長期･短期･国内)の検討

・留学を含む英語学習方法の多様性を検討します。

・国内留学(仮称)の実施に向けて検討します。

(4) 言語教育を土台とした人間教育、語学教育、理系教育

・英語科以外の生徒が英語(外国語)の楽しさを経験する授業を行います。

・生徒が学び体験できる理系プログラムを研究します。

(5) 英語を含む多言語の習得を通しての異文化理解

(6) 国内留学(仮称)の検討(スミス寮の活用)

Ⅴ. 大学との共同研究(英語･国語･他)

(1) 英語教育･言語教育

総合学園としてのメリットを活用して、これまでの中等教育、高等教育の枠組みを超えたプログラムの研究検討を行います。

(2) リベラルアーツ教育

中等教育での探究型授業・PBL 学習・SDGs 教育を経験した生徒の学びの継続と学園で学ぶ生徒学生が学びの楽しさを知り、自ら学習する力を身に着ける教育連携を検討します。

(3) イマージョン教育

(4) IB 教育(PYP 教育・MYP 教育・DP 教育)

総合学園として北星学園が育てる真の国際人育成を念頭に中期計画に取入れ研究します。

Ⅵ. 部活動

(1) 新しい教育と部活動･生徒募集活動と部活動の関わり

本校がこれまで行ってきた体験型学習や探求型の学びに対して評価を受け始めています。また、公立学校での部活動に対しての制約が従来以上に強まり、全国大会・全道大会に出場する部活動だけでなく、部活動と学習を両立する中学高等学校生活を希望する生徒が増加し、本校での部活動に期待が集まる傾向にあります。

・部活動と学習の両立を希望する小中学生への働きかけを行います。

・総合学園として部活動連携の可能性を検討します。

(2) 学校規模に見合う部活動の整備

・外部コーチ(校外実技指導者)の導入を検討します。

Ⅶ. 生徒募集

2022 年度入試結果は一貫・高校ともに２月４日現在、一貫課程入学生徒数(Ⅰ期入試合格手続数 80 名)が昨年度比 10%増、高校課程入学生徒数は昨年度と同じく前年度比約 10%増を予想しています。2020 年度から続く新型コロナウイルス感染症拡大の影響は、今年度も学校運営に直接的あるいは間接的に影響を及ぼすことが予想されます。これまでの感染症対策の経験を活かし生徒募集活動に努め、今年度も生徒数の増加に繋がる教育改革・学校生活づくりに力を注ぎます。(教育活動と生徒募集活動の両立)

◎入試

・入試全般(日程・科目数・内容・他)について検討します。
・学校イメージの改善や組織の改編について検討します。
・2022 年度入試結果分析を行います。

◎広報

・本校の認知度を高める方法の調査研究を継続します。
・全教職員が生徒募集の目線を持った教育活動(教科・学級運営・行事・放課後活動)を共有し、安心安全な学習環境を提供していること、本校が継続する教育活動(商品開発・SDGs 教育・GSlab・スタディツアー他）に探究型授業、PBL 教育への取組みなど、総合的な学びを実践する学校であることを広く告知します。
・SNS 等デジタル広報媒体の有効活用研究を継続します。
・オープンキャンパス(小学生対象)の開催を継続します。
・広報研究部(在校生徒)参加による学校説明会を行います。
・小中学校、学習塾訪問体制を強化します。
・Web 出願を実施します。

(1) 札幌石狩圏以外の女子児童･女子生徒募集(スミス寮の活用)
・コロナ禍によって実施できなかった石狩圏外の小中学生保護者への校地内寮の告知を行います。
(2) 留学生(アジア地域)の積極的な誘致
(3) 北海道の 12 才、15 才人口減少（少子化の影響の拡大）への対策
(4) 国内以外からの受験生発掘と生徒募集
(5) クリスチャン人口が増加するアジア地域のミッションスクールとのネットワーク構築
(6) 国際基準の教育実施
(7) その他
・今年度から制服正装にスラックスを加えます。
・学校アンケート結果を有効活用し、学校への期待に応える学校づくりを行います。
・生徒指導、保護者対応研修を実施します。

Ⅷ. マネジメント改革

(1) 役割担当と権限の明確化
・2024 年度学校運営体制(2024 年度新校長就任)への準備を行います。
・管理職体制整備（2021 度から教頭３名体制実施・副校長職の研究検討）を継続します。
・教育改革に対応する学校運営マネジメント体制の整備と強化を行います。
・学級担任の役割と働きの研修を行います。
・校内分掌の働きと役割を整備します。
(2) 評価委員会
第三者委員会の在り方を検討し設置します。

Ⅸ. 北星ブランドの構築と運用

(1) 教員人事採用
教員の資質向上について
教科力、学級経営力、コミュニケーション力(生徒教員間・教員間)、保護者対応力など教員に必要とされる力は多岐にわたります。更に創立者が残した教育理念と歴史から本校教員として備えるべき資質を身に付けることは、創立者が掲げたより良い学校づくりのために非常に重要です。
・担任研修（学級運営・保護者対応）を実施します。

・初任者研修、中堅教員研修(キリスト教学校教育同盟・私立中高協会等)に出席します。
・新しい時代の教育に相応しい教員採用（複数教科教員免許・他）に努めます。
・人事委員会の主導により本校教育に相応しい教員の採用に努めます。

(2) その他

・2025 グランドデザイン(教育改革第Ⅱ期)改革案策定のための小委員会を設置します。
・働き方改革にかかり、労働者過半代表と検討して変形労働時間制導入等、学園との調整を行いつつ働きやすい職場づくりに励みます。また、労働環境を改善し、社会から評価される学校づくりを行います。

Ⅹ. 校地資産活用

(1) 南四条校地活用

札幌市中心部に位置する学校として地域に開かれた活用を学園と検討します。

(2) 盤渓校地の活用

学園規模で検討を進めます。

Ⅺ. 財務運営方針

(1) 財政運営目標設定

・2030 年度に経常収支差額均衡を目指します。

【目標入学生徒数(学園提出済)】

	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
6 年	198	177	187	215	215	215	215	215	215	215
5 年	177	187	215	215	215	215	215	215	215	215
4 年	187	215	215	215	215	215	215	215	215	215
3 年	67	81	80	85	85	85	90	90	90	95
2 年	81	80	85	85	85	90	90	90	95	95
1 年	80	85	85	85	90	90	90	95	95	95
計	790	825	867	900	905	910	915	920	925	930

(2) 財政計画立案

以　上